

お知らせ

七月七日は「川の日」です！

～ 21世紀に活かす～

「河川伝統技術」パネル展を開催します。

建設省では、近代河川制度制定100周年にあたる平成8年度に、7月7日を「川の日」と制定し、河川と人との関わりとその歴史、河川の持つ魅力などについて理解と関心を深めて頂くために、さまざまな催しを行っています。

本年は、この「川の日」にあわせて、全国行事として「河川伝統技術パネル展」を開催します。このパネル展は、全国47都道府県の県庁所在地等で開催され、岡山県では次のとおり開催します。

日時：平成12年7月1日（土）～7日（金） 10:00～17:00

場所：岡山市中山下1丁目8番45号

NTTクレド岡山ビル 1階エントランスホール

このパネル展は、近年、ともすれば見失われがちな河川における伝統的な工法や技術を紹介し、古来から脈々と受け継がれてきた河川と人との深いつながりを再認識することを目的としています。岡山においても、古来から川と人との深いつながりがあり、旭川の洪水から岡山城下を守るために江戸時代に開削された「百間川」や、高瀬舟の往来のために造られ船穂町指定の文化財となっている「一ノ口水門」などのパネルを展示する予定です。

なお、あわせて岡山の川に関するビデオ上映も予定しています。入場は無料です。

建設省 岡山河川工事事務所

問 い 合 わ せ 先

建設省 中国地方建設局 岡山河川工事事務所
TEL (086) 223-5101

副所長（技術）	松本 秀應	内線 205
調査設計課長	石井 宏幸	内線 351

展示パネルの一例

(全国)

・聖牛

水の勢いを弱めるために川の中に設置された工作物で、丸太を三角錐形に組み石などで固定したもの。

・粗朶沈床

粗朶（ナラ、クリ等の枝）と石を用いた、護岸の基礎部を補強する伝統的な治水工法のひとつ。自然の材料ゆえ生態系の保護に役立つなどの効果もある。

(岡山)

・ケレップ水制

舟運の盛んな頃に、旭川の流れを安定させるためにオランダ人技師ムルデルの考えにより設けられたといわれている。

・倉安川吉井水門

津田永忠によって開削されたといわれている倉安川は、当時盛んに開発されていた新田へのかんがい用水に加え、運河としての役割もあった。倉安川吉井水門は吉井川からの取入口にあたり、吉井川本川と倉安川の水位差を調整する閘門式の水門が設けられて、高瀬舟の航行のために用いられた。

・一ノ口水門

内陸の藩であった備中松山藩の水谷氏が、松山藩の外港としての役割を担った玉島港と高梁川を直結するための「高瀬通し」の水門。これも閘門式の水門であり。規模の大小の違いこそあるが、パナマ運河よりも約240年前に築造されたといわれている。

